

創造性と人間性豊かな
「大学教育モデル」を目ざして

—シンポジウム

「『知』を育てる—京都3大学からのメッセージ—」から

大学文学部教授・
教育開発センター所長
圓月 勝博

2006年3月19日午後1時、シンポジウム『知』を育てる—京都3大学からのメッセージ—が、同志社大学、京都大学、立命館大学および朝日新聞社の共催によって、京都大学百周年時計台記念館・百周年記念ホールで開催された。

京都を代表する3大学長・総長からのメッセージとパネル討論が繰り広げられ、会場は大いに盛り上がった。シンポジウムの概要を同志社大学からの発言を中心に整理し、いわば「同志社大学からのメッセージ」としてご報告する。

熱気に包まれた会場

八田英二同志社大学長、尾池和夫京都大学総長および長田豊臣立命館総長の基調報告を受けて、同志社大学をはじめとして京都を代表する上記3大学の教育をめぐるパネル討論が行われた。

パネル討論には、上野千鶴子東京大学教授と金田嘉行（よしゆき）ソニー顧問

に加えて、3大学から1人ずつパネリストが参加することになっていたもので、林哲介（てつすけ）京都大学高等教育研究開発推進機構長および木村一信（かずあき）立命館大学文学部長とともに、私もパネル討論に参加することになった。コ―ディネーターは横井正彦朝日新聞大阪本社編集局長補佐。

当日、会場は熱気に包まれていた。聴

衆は先着500人という予定であったが、参加申込者は750人を超え、運営の世話をしていた関係者は嬉しい悲鳴をあげていたようである。シンポジウム開催時間帯には、イチローの活躍などで大いに国民的盛り上がりを見せていた「ワールドベースボールクラシック」の準決勝となる対韓国戦のテレビ放映があったので、申込者の出足も鈍るのではないかと、といういささか不謹慎な軽口も控え室で当初は聞かれたのだが、開催予定時間が迫るにつれて、立錐の余地もないほど聴衆が溢れかえり始めた会場を目の当たりにして、関係者一同あらためて襟を正した次第であった。一般社会に対する反響という点だけを見ても、まずは大成功の



基調報告をする八田英二同志社大学長

同志社の基本精神と良心教育

が、同志社大学、京都大学、立命館大学という京都を代表する3大学を率いる学長・総長が一堂に会して、一般聴衆を前にして大学教育について語り合うという画期的な企画自体に、大きな注目を集めた最大の理由があることは間違いない。ご足くださった聴衆には大学教育関係者もおられたが、大半はいわゆる一般市民の方々であった。学内で自分の仕事だけをしていると、地域社会の方々が同志社大学に寄せてくださる熱い期待をともすると忘れがちだが、このような機会に参加してみると、同志社をはじめ各大学が地元の人々の温かい応援に支えられて発展してきたことがひしひしと伝わってくる。世間を賑わしている野球のことなどには一瞥もくれず、同志社大学長が京都大学総長や立命館総長と戦わず大学教育論を戦戦恐るために、せつかくの休日にも関わらず、これほどの聴衆が駆けつけてくださることを我が目で確認して、伝統ある私学の教員を務めるといふことに対する社会的自覚がまだまだ足りないことを肌で実感できる貴重な機会になった。

基調報告において、京都という歴史ある町で多くの方に「母校」と呼ばれることが持つ特別な意味を八田学長が力説されたが、同志社大学という名門私学を率いるリーダーの強い責任感と自覚がその発言には滲み出ていた。京都大学の尾池総長が、同志社大学と立命館大学に対する多少の社交辞令も含めて、個性的な建学の精神と教育理念を持つ伝統ある私学に対する羨望の念を感じるときもあるという趣旨の発言をされたことを受けて、我々が八田学長は、大学進学率が50%を超えるようになった現在、日本の高等教育における私学の重要性がますます高まっていることを強調した上で、キリスト教主義、自由主義、国際主義を核とした教育重視の姿勢こそ、同志社大学の基本精神であることを明快に語られた。国立大学が日本の教育研究に果たしてきた貢献が小さからぬものであることは、誰もが認める事実だが、国立大学には個性的な建学の精神というものが明確にはないという弱点もある。例えば、京都大学の

企画であったと言えるだろう。朝日新聞社という全国紙の宣伝力が大きな功を奏したことは言うまでもない

尾池総長が「自学自習の精神」を教育理念として挙げられたことに對して、パネル討論に参加された京都大学出身の上野氏から「私も『自学自習の精神』の恩恵を受けた一人ですが、今から考えると、『自学自習の精神』は教育理念というよりも単なる放任だったような気がしますけどね」という氏一流の辛口のからかいを浴びておられたことが示唆するように、国立大学にはともすると教育理念の不在という問題が顕在化する傾向もある。「個性が輝く大学」が待望されている現代日本の教育界において、自由な私学の利点を活かして、個性ある教育活動を積極的に推進しながら、その教育理念を社会に広く発信していくことが同志社大学の今後の最大の課題となるであろう。

同志社大学の輝く個性として、八田学長が力説なさった点は、知識を知恵に育てていく良心教育の実践である。同志社と同じ私学である立命館大学の長田総長は、大学教育の大衆化を肯定的に受け止めるという明確な姿勢を雄弁に語られて、私も個人的に大いに啓発されたが、

大学教育の大衆化をどのように解釈するかは、各私学によって様々な意見があつて然るべきであろう。教育関連方策を立案する部署のまとめ役をしている私は、大学教育の大衆化に對して立命館大学が次々に提案実施しておられる斬新かつ大胆な政策に大きな刺激を常に受けているが、同志社大学の一員として見ると、立命館大学の考えにある大学教育の大衆化とは、効率的な実務型人材養成を意味する場合が多いという個人的印象も持っている。同志社大学が立命館大学とは異なる個性を主張するためには、八田学長が明快に語られたように、知識を全人格的な知恵に昇華していく良心教育の推進に取り組んでいることをできる限り多くの方に知っていただく必要がある。

近年、大学認証評価や各種大学教育支援プログラムなどにおいて、人格教育の重要性が特筆されていることを見てわかるように、同志社大学が長年にわたって積み重ねてきた良心教育の実績は、科学技術が高度に発達した情報社会においても、その現代性が増すことはあつても減ることはない。昨今の大学教育論の中

で、人格教育の推進が大きな課題として取り上げられることには、仄聞するところによると、財界および実業界からの要望が大きな影響を与えていると言う。次代の人材を受け入れる企業は、人材育成に携わる大学関係者以上に、若者に総合的な人間力を切実に期待しているようである。そのことを裏付けるように、後半の議論の口火を切るにあたって、パネル討論に参加されたソニー顧問の金田氏から、大学教育に対する企業サイドからの期待として、「高い教養」というものが、最優先項目としてあるとの指摘があり、本シンポジウムの中心テーマが定まることになった。

同志社大学の教養教育改革

八田学長などが熱弁をふるわれた基調報告を受けて、パネル討論に際しては、各3大学における教養教育の意義が各パネリストに問われることになった。学際性を力説された立命館大学の木村教授や、「自学自習の精神」を決断力の養成方策として展開するためのコア・カリキュラム整備の構想を披露した京都大学の



パネルディスカッションの風景（壇上右から3人目が筆者）

な教養教育改革の成果が現れ始めているが、その中でも特筆すべきものとして、「同志社科目」と「プロジェクト科目」を私は取り上げた。「同志社科目」は130年の歴史を誇る本学の建学精神の継承を教育目標とする教養科目群であるが、同志社大学の最大の財産である良心教育の意義を学生に積極的に伝えていくことに、私たちが日々尽力していることを聴衆の皆様にもご理解いただけたものと期待している。この「同志社科目」が伝統の継承を主眼とするのに対して、今年度からスタートした「プロジェクト科目」は、一般市民の方も教壇に迎えて、地域社会との交流を推進しながら、現実的問題解決能力を養成することを教育目標とする革新的な教養科目群である。科目担当者を一般社会にも広く公募するという画期的方策は、幸いな

林教授に對して、私は同志社大学の教養教育改革の現状を紹介した。近年の同志社大学においては、良心教育の推進を唱導されている八田学長の意向に添って、教務部長を兼任されている田端信廣副学長の強力なリーダーシップのもと、様々

なことに、同志社大学が長年にわたって積み重ねてきた良心教育の実績は、科学技術が高度に発達した情報社会においても、その現代性が増すことはあつても減ることはない。昨今の大学教育論の中

ことに大きな社会的反響を呼んでおり、教養教育の新たな理念を提案した教育プログラムとして高い評価を得つつある。知識を知恵に昇華するために、豊かな伝統に立脚しながら全人格的教養の現代的意義を問いかけ続けることが、同志社大学の最大の教育的使命であることが聴衆の皆様にもよく伝わったとしたら、非力な私としてはそれ以上に嬉しいことはない。

パネル討論が終わって、八田学長が再び尾池京都大学総長と長田立命館総長とともに登壇されて、東京一極化の傾向に抗しながら、日本の知の発信地である京都の活性化のために、3大学が今後も協力と切磋琢磨を惜しまないことを述べられて、満場の温かい拍手を受けながら、シンポジウムは大盛況のうちに閉幕した。会場別室において関係者一同でささやかな懇親会を開いたが、予想をはるかに上回る満足度を伝える聴衆アンケートの集計速報とともに、ワールドベースボールクラシック準決勝での日本チーム勝利の一報も届き、充実した1日に愉快な興を添えた。

卓越した国際感覚と豊かな教養を 持つて活躍できる女性を育成

— 女子大学、2007年度「国際教養学科」を開設

女子大学芸学部教授・
国際教養学科主任予定者
飯田 毅

新島の志を受け継ぐ

新島は1864年国禁を犯し、自らの命をかけてアメリカの地に向かった。2007年、留学をカリキュラムに取り入れた学科が女子大学に誕生する。国際教養学科である。幕末という時代の留学と今日の国際化時代における留学の意味は大きく異なる。しかし、海外で学ぶことは新島の時代同様に大切な意味がある。それは、日本を真に理解し、他国について学び、常に複数の視点からものごとを捉える力を養うことにある。

本学科の開設の経緯、教育目標

本学は、創立130周年を機に、本学の理念であるキリスト教主義、国際主義、リベラル・アーツの中の2つ、国際主義とリベラル・アーツを充実させるために2007年4月に国際教養学科を設立する。本学科の教育目標を端的に述べるならば、「国際感覚を持った教養ある女性」の育成である。国際化が進展し、さまざまな人々が交流する社会にあつては、常に種々の問題に対して、世界の状況を知った上で、日本にとつてどのような解決策があるのかを考え、実践する女性の育成が急務であ

るからだ。国際感覚を持った女性とは、単に外国のことを知っている人ではない。また、英語が上手に話せる人を指すのではない。それは、母国のことを理解した上で、外国のことを理解している人であり、常に他国と母国の複数の視点を持った人である。また、教養とはさまざまな知識と貴重な体験を通して得られる物事の本質を見抜く力のことである。

学びの特色とは何か

本学科の教育内容の特色として、以下3点が挙げられる。

- (1) 英語を通して幅広い教養の習得
- (2) 国際的視点に立った授業展開
- (3) 一年間の海外留学

英語に対して、「国際語」という地位を与えることは問題がある。しかしながら、世界中の人々とコミュニケーションを取る為には、英語という言語は国際化が進む現在では最良の選択である。その英語を使って国際舞台で活躍できるようにするためには、高校までの英語の基礎の上に立って、短期間の集中訓練、留学中と留学後の英語を学問として実際に使う体験が必要である。そのために留学前には徹底した英語の4技能（聞く、

話す、読む、書く）向上のための授業が用意されている。また、国際教養科目として、「日本の社会・文化」、「外国の社会・文化」、「国際関係」に関するさまざまな科目が用意され、そのほとんどが英語で行われる。

国際的視点に立った授業展開としては、第1に英語「スキル科目」、「国際教養科目」、「演習科目」が相互に有機的に結びついていること。第2に、留学前に各自のテーマを持って留学し、1年間の留学中にテーマを発展させ、帰ってきてから留学先と日本の視点を基にテーマを進化させ、卒業論文として結晶化させるのである。特にその役割を果たすのが、「演習科目」である。留学準備はもとより、留学前のテーマ設定、留学中の指導、留学後の指導と系統的に段階を踏んで、各自のペースに合わせて進められるよう計画されている。

第3の特色として挙げられる点が、2年次秋学期から3年次春学期までの1年間の海外留学である。前述したように、留学を事前・留学中、事後と3段階に分けて系統的に位置づけているばかりでなく、留学先としてアメリカ・カナダ・イギリス・オーストラリア・ニュージーランド等の大学に1大学につき5人程度（10人以内）の学生を派遣する予定である。現在まで、現行の協定留学大学に、232人の留学生を派遣（1年間）し、全員が無事に帰国し、卒業後さまざまな場面で活躍している。この協定留学大学に加えて現在、更に留学先を開拓中である。協定大学へは、本学教職員が必ず事前視察することになっている。日本から、アドバイザー（専任教員）がきめ細かくフォローし、「Tutorial（実地研究指導）科目」として保障、個々人の個性に合った留学を実現させる。また、留学に際しては本学科の上位8人（入学定員の1割）の学生を対象に、留学に係る授業料相当額を本学が補助する制度もある。

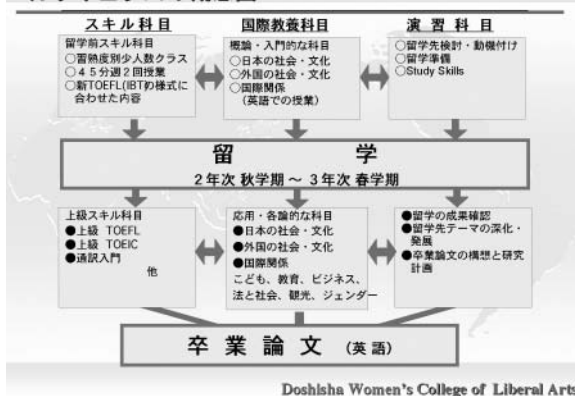
卒業後の進路と入試制度

卒業後の進路として、海外を含めた関連大学院への進学、運輸、旅行、商社、製造、流通、メディア、情報などの国際的な（外資系）企業や通訳者等の国際感覚と高度な英語運用能力が必要とされるその他の職種が考えられる。

最後に、本学科は個性を生かす入試制度を取り入れている。本年内に実施される入試として、AO方式入学者選抜、推薦入学試験S（公募制推薦入試）、同窓・校友の子女対象である推薦入学試験C（専願）、英検・TOEFL・TOEIC等の有資格・有

能力者対象としている推薦入学試験L（専願）がある。また、来年早々に一般入試として一般入学試験（前期日程）と一般入学試験（後期日程）がある。志ある女性の入学を期待している。詳しくは本学入学センターまで連絡をいただきたい。

カリキュラムの概念図



Doshisha Women's College of Liberal Arts